

# 日本比較文化学会・中部支部ニュース

第7号

2015年3月31日発行

## 2014（平成26）年度中部支部総会報告

（中部支部長：澤田 敬人）

2014（平成26）年度の中部支部総会は、中部支部第7回大会（常葉大学大学院サテライトキャンパス，2015.2.15）にて開催されました。以下、簡単に議事を報告します。

### ○報告事項

1. 2014年度支部新入会員（他支部からの転入2名，新会員7名）  
2015年2月15日現在の中部支部所属会員数は27名となった。
2. 2014年度日本比較文化学会全国大会総会（2014（平成26）年6月13日，於・北九州国際会議場）が開催された。中部支部に関係する理事会人事として、澤田支部長と安藤副支部長が理事に就任した。
3. 中部支部ニュース第5号，第6号（編集主幹：白鳥副支部長）発行  
第5号（2014年3月31日発行），第6号（2015年1月24日発行）
4. 2014（平成26）年12月6日に関西・中部・関東支部合同例会を開催。於・東京未来大学。  
澤田支部長、川口副支部長・事務局長、野口会員が出席。
5. 中部支部第6回，第7回大会開催
  - ・中部支部第6回大会，2014年9月21日（日），於・浜松学院大学  
テーマ：比較文化と学術的伝統  
自由研究発表，討論会（ラウンドテーブル）
  - ・中部支部第7回大会，2015年2月15日，於・常葉大学大学院サテライトキャンパス  
テーマ：グローバリゼーションと比較文化  
自由研究発表，討論会（円卓会議）
6. 中部支部役員会
  - 第1回 2014年5月31日～6月4日 メール会議
  - 第2回 2014年6月22日～7月5日 メール会議，6月28日於・浜松クラウンパレスホテル（10:00～12:00）および静岡ホテルアソシア（14:00～16:00）
  - 第3回 2014年12月10日～12月31日 メール会議
  - 第4回 2015年2月15日 於・常葉大学大学院サテライトキャンパス
7. その他

### ○審議事項

1. 2015（平成27）年度事業計画  
澤田支部長より名古屋開催、大会と例会の開催、開催内容の検討に関する2015年度事業計画が示され、異議なく了承された。
2. 支部内規案  
澤田支部長より論文集の財源確保を目的にして支部大会の開催時に徴収する参加費に関する支部内規案が示され、一部文言を修正し、会員に修正案を送付したうえで本案を了承することが確認された。文言修正後の案文は以下の通りである。

支部大会等の開催に関する内規（案）

1. 支部大会等を開催するにあたり発生する会場費を支出するために当該の支部大会および例会に参加した会員より参加費を徴収する。金額は別に定める。

付則

1. 本内規は平成 27 年 2 月 15 日より発効する。

3. 自由研究発表応募申込書の新様式

澤田支部長より自由研究発表応募申込書の新様式について提案があり、異議なく了承された。

**2014（平成 26）年度中部支部決算報告**（会計：白鳥 絢也）

平成 26 年度 日本比較文化学会中部支部 会計報告書

自：平成 26 年 4 月 1 日

至：平成 27 年 3 月 31 日

（単位：円）

支出の部			収入の部		
科目	金額	摘要	科目	金額	摘要
会場使用料	2,070	9/25 クリエイト 浜松 予約取消	前年度繰越金	36,390	
会場使用料	2,547	9/25 お茶うけ	補助金	10,000	8/27 日本比較文 化学会本部より
			受取利息	2	4/1 ゆうちょ銀 行利息
			大会参加費	6,500	9/25 第 6 回大会
			受取利息	2	10/1 ゆうちょ銀 行利息
次年度繰越金	48,277				
合計	52,894		合計	52,894	

（※日付は通帳記載日）

現金残高 19,650  
ゆうちょ銀行残高 28,627  
 48,277

以上のとおり報告致します。

平成 27 年 3 月 31 日

日本比較文化学会 中部支部長 澤田 敬人  
 監査 津村 公博  
 会計 白鳥 絢也

## 2014（平成26）年度中部支部第7回大会報告

2015年2月15日（日）、常葉大学大学院サテライトキャンパスにおいて第7回大会が開催されました。以下、発表要旨を掲載いたします。（※敬称略）

### ○大会テーマ：グローバル化と比較文化

#### 【第1部】自由研究発表（一人発表20分＋質疑応答10分）

司会：川口 雅也（浜松学院大学）・白鳥 絢也（星槎大学）

#### 日本の墓文化における変化

塚本 美穂（京都外国語大学大学院）

古代より墓はコミュニティに必要なものであり、家督を継ぐ者が代々継承してきた。本発表では、紀元前10,000年前から現在までの埋葬方法、墓の種類、墓に対する人々の考え方の変化を中心に考察した。

死者の埋葬方法としては、土葬、火葬について触れた。墓の種類としては近年人気が出てきたデザイン墓を取り上げた。この日本のデザイン墓の比較として、米国のデザイン墓を取り上げて、米国における墓の設置規定について説明した。これによって日本と海外における墓に対する見方の相違を提示した。日本における墓石および葬儀の価格の比較としては、米国、英国、ドイツ、韓国の価格を取り上げた。

さらに都心においてビル型納骨堂が拡大している点について説明した。ビル型納骨堂は駅から近く、休日にお参りするのに便利な場所に設置されているため、わざわざ田舎のご先祖様の墓に数日かけて行く必要もないことについて触れた。これ以外に寺の住職などに墓の世話を依頼する永代供養墓が急増している点について説明した。

日本の墓の形態および日本人の墓に対する考え方が変化してきた要因として、超高齢化社会および少子化の影響がある。例えばビル型納骨堂では、都会における土地不足のために建てられている。永代供養墓は、少子化によって墓守がいなくなったために拡大している。総じて日本社会の変化および核家族化による家族制度の変化が墓文化に大きな変化をもたらしていると考えられる。

## セネガルの教育改革—宗教施設から初等教育相当機関へ向けての”ダーラ”の改革—

鈴木 宣行（創価大学）

セネガルの発展に最重要な要素は何か。それは、「教育」であることは論を待たない。しかし、普通学校を拡充、拡大していくには多額の費用が必要となってくる。セネガル政府にとっては、大きな負担となる。そこで、NGO など非政府組織が運営する ECB（地域初等学校）やこれまで宗教施設として扱われていた「ダーラ」を活用していくという施策が採られるようになってきた。この施策はセネガルの教育状況の改善に有効なものとなると考えている。

筆者は、今回は特に「ダーラ」に焦点を当て、このダーラの教育に果たす役割を考察してみた。そのダーラは普通教育科目を導入した「近代ダーラ」と称されるものである。ダカール市内に存在する近代ダーラの一つである「Centre d'Education Islamique」を例に取り上げ、今後、この「近代ダーラ」をより良い教育機関とするためには、どのような課題があり、そのような解決の道があるのかを現在、実施されている教育内容、運営状況などを概観しながら、考察してみた。

現在（2014年3月時点）、この近代ダーラでは、教職員8名（校長、事務長、教員5名、生活支援担当者1名）で101名の児童を教育している。現在、開設されている課程は初等教育課程のCP（1年生）とCE1（2年生）の二つである。これを将来的に、初等教育海底の最終学年である5年生までの課程に拡充しようとしている。以前、ダーラはコーランなどを教える宗教施設であった。その指導者はマラブー（導師）である。現在も「私立学校」としての地位でしかない。そのため、学校運営経費は全てその運営責任者（ここでは、マラブー）が賄わなくてはならないので、同責任者は私財を投じて、これを運営している。運営経費獲得のため、国際機関、政府などに多くの書類を提出しているが、援助を受けるのは困難な状況である。まず、政府は公立学校の経費、ことに人件費の見直しを断行することが求められる。そこから捻出された予算をこの初等教育相当機関に補助していく道筋を付けることが求められるのである。さらに、この近代ダーラも現状に見合った経費を計上し、それに対して国際機関などに支援を求めなければならない。

この ECB や近代ダーラの拡充によって、セネガルの基礎教育分野の拡充が図られ、就学率、識字率の向上に道筋が付けられるものと考えている。

## 【第2部】 討論会(円卓会議)

パネリスト①：白鳥 絢也（星槎大学）「グローバル化と学校教育」



グローバル化に伴う市場主義や競争主義の進展とともに、学校教育の分野にどのような影響が生じているのかについて、特に教材開発の原理に基づいて「ESD」や「多文化共生教育」の点からその課題を検討したい。

パネリスト②：川口 雅也（浜松学院大学）「英語は地球語か」

地球を全体として見るのが大切と言われる中、「国際語」という階級をさらに越える「地球語」という爵位が、一言語にすぎない英語に与えられているのは何故か。自ら好んで米国文化を基準とする日本の在り方に警鐘を鳴らす。



パネリスト③：澤田 敬人（静岡県立大学）「グローバル化と人の健康」



グローバル化の文化の次元を検討し、英米的な価値と消費財の普及のもと、ファストフードという画一的なグローバル商品が人の健康に影響を与えることを指摘する。

## 円卓討論会「グローバル化と比較文化」

コーディネーター：安藤 雅之（常葉大学）

中部支部大会では、毎回大会テーマに基づいて円卓会議を開催している。支部会員数が少ない点を生かし、会員が「比較文化」という観点を基盤にしたり意識したりして、互いに考えを深め広げる機会として大変意義深い場となっている。

本大会では最初に 3 人の発言者（白鳥絢也氏、川口雅也氏、澤田敬人氏）より、それぞれの研究分野の視点から 10 分程の持ち時間の中で問題提起等がなされた。白鳥氏からは多様な「人・もの・こと」との関わりを重視した学校教育の展開が必要であることを「多文化共生教育」の推進という観点から検討課題が出された。川口氏はグローバリゼ



ーションの名のもとに、英語だけが重視される文化のひずみについての指摘がなされ、さらに澤田氏からはファストフードを事例にして、世界的に文化次元が「画一化」、「英米化」している実態とともに肥満率上昇の関連性についての紹介がされた。

今回は参会者が少なかったため円卓を一つにして、3人から出された問題提起に対する感想や意見交換を皮切りに、自由闊達な論議が展開された。その中でとりわけ大きな話題に上がったことは、これからのグローバル社会で生きていく上で重要かつ必要な教育や社会づくりは、個々人がまず固有の文化や価値観を尊重したり重視したりすることが何よりも重要であるということ、また人種や文化を超え、互いに認め合える寛容性や理解力、そして人間的魅力づくりの必要性、さらに対等に生きていくための共通土俵を見出すことができる人材育成が大きな鍵であることが確認された。

また円卓会議を通して、あらためて「比較」、「文化」、「比較文化」という語がもつ意味やその重さ等について考え、気づかされる論議を展開することもでき、有意義な学び合いの機会とすることができた。

## 第7回中部支部大会 スナック



**「中部支部」会員募集**  
**中部支部大会『名古屋地区をはじめとする中部地方全域』**  
**開催者募集**

- 「中部支部」会員を募集しております。当面、中部支部は他支部との合同による全国大会の開催を目指しています。中部支部が、全国大会開催や紀要編集をも担える支部にしていくために、みなさまのご協力をお願い申し上げます。
  
- 次回の中部支部第8回大会は、**2015年9月27日(日)・椋山女学園大学**で開催予定です。  
(詳細は、追って紹介させていただきます。)
  
- 今後も『名古屋地区をはじめとする中部地方全域』を範囲とし、中部支部大会を開催することを予定しております。つきましては、支部大会開催の意思がある方を募集致します。

中部支部をより充実・発展させていくために、是非ご協力いただきたく、お願い申し上げます。  
開催を希望される方は、下記までご連絡下さい。お待ちしております。

- 連絡先 (澤田 敬人) : [sawada@u-shizuoka-ken.ac.jp](mailto:sawada@u-shizuoka-ken.ac.jp)
- 同 (川口 雅也) : [kawaguchi@hgu.ac.jp](mailto:kawaguchi@hgu.ac.jp)

『中部支部ニュース』第7号  
発行：日本比較文化学会中部支部